

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	聞き取り内容 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念については、入社時に説明している、また、目標は毎年、全職員に伝え、常に名札と一緒に携帯している	法人理念は、事業所内に掲示され、さらに職員1人1人が名札と一緒にクレドカード化して法人理念と今年度目標を記載し、携帯している。また、新入職員に対して、経営理念等記載されたパンフレットを配布し、説明している。	法人として歴史があり、創設者の想いが詰められた理念が掲げられている。また、HPには非常に細かく沿革やその時の想いが書かれているので、地域住民にも発信する機会を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会の会議に参加したり、職員、利用者が地区の行事に参加したり、こちらの行事に自治会の方を招待をしたりなどの交流があったが、自治会の会合や事業所の大きなイベントもコロナ禍でできなくなっている。今年、少しイベントの開催が緩和されれば、交流を復活させたいと思う。	コロナ禍の前は自治会との交流もあり、公民館でのイベントや認知症カフェ等に参加していたが、コロナ禍で自治会イベント等は軒並み中止となってしまい、交流の機会が減ってしまっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は、ご利用者と触れ合う機会を作ったり、認知症についてのミニ講座を開催したりとの交流があった。今現在は、定期的に広報誌を発行し、活動報告を行ったり、また、自治会の方を数人雇用しているのと、法人の特養に自治会の方がご利用者で入居されたりと、認知症についての相談等も受けている。自治会も高齢化しているので、地域ににっとなって安心できる場となればと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、令和4年度は、二回のみ開催になった。会議の中で、外部からどう思われているか、いろいろと意見をきく中で、こちらも初めて気づく事もあるので、令和5年度も感染対策をしながら、できるだけ開催し、事業所のサービスを向上していきたいと思う	感染状況に応じて運営推進会議を行っている。外部との交流が減っていく中で新たな課題も出てきた。事業所としての透明性を図る為に今後も感染対策を行いながら、可能な限り会議の開催に取り組めるようしている。	同一法人内の施設でクラスターが発生した事を運営推進会議で報告した所、自治会の方が不安に感じてしまう事があった。外部との交流が減ったことで施設の状況が伝えきれていないと感じた事をプラスに考え、地域の方が安心していただけるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議に出席していただいて、こちらの取り組みや活動報告を行っている。ただ、あまり頻繁に開催できていないのが現状。担当の方は、高齢課に数年在籍されている方で、当法人の他の施設の事や地域の実情なども理解されていると思う。災害時なども協力していただいた。	以前は運営推進会議以外にも認知症家族の会などで事業所の実情などを伝える機会があったが、コロナ流行に伴い、機会は減少している。感染状況が落ち着いた際には再開したいと考えている。	コロナ禍以前では顔を合わせて話をする機会があったので、感染状況に応じて関わる気が増えることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修、勉強会等は、非常勤の方を含め、できるだけ参加させるようにし、全体として取り組んでいる。ただ、外の出入口については、居室の窓は開けられるようになっているが、他4か所の出入口は、安全を考えて施錠している。ご家族にも施錠しているという事で安心していただいている。	身体拘束に関しての研修は年間の研修計画に組み込まれており、定期的実施している。聞くだけの講義ではなく、アンケート調査なども行い、一人ひとりの考え方をなくし、ケアの統一が図れるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止、身体拘束に関する研修に参加し、また、アンケートをとるなど、職員が虐待と認識しているかどうかを調査し、虐待防止委員会を定期的に関き、施設全体として虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	聞き取り内容	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ終息後には、また、同法人の障害者施設や特養などと合同研修などを開き、グループワークするなどの機会を作りたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には、十分に説明し、不安や疑問、意向を聞き、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置があるが、利用されている方はいない。面会は、今現在は中止していない。面会時や電話等でご家族とコミュニケーションを図り、又、毎日の日々の中で一人一人の思いを汲み取るように努めている。	意見箱はご利用者・ご家族向けに設置している。その他、管理者がご家族と顔を合わせて話を聞く事を大切にしている。時にはご利用者のみならず、ご家族の悩み相談に至るまで、ご家族と事業所の信頼関係が構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、職員会議等で仕事場への要望や意見を提案してもらう。また、年度始めや末等で個人面接を行う時に個人の意見や提案をだしてもらう機会がある。	1年に2回、管理者が職員一人ひとりと個人面談を行っている。1対1で話をする機会を設けることで普段できない話などができ、メンタルケアにも繋がっている。面談ではお互いの意見交換であったり、事業所としての方針や方向性の統一に向けた取り組みとしている。	職員に対しての面談は定期的には実施できているが、管理者に対する面談機会が少ない様子なので、今後そういった機会を設けてもらえることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、職員によっては、年に数回、面接を行い、個人目標や達成状況を把握し、それぞれの“頑張り”を公平に評価するようにしている。正規職員への希望や仕事内容についての相談だけでなく、プライベートや人間関係などが仕事にかなり影響する職員もいるので、管理者は、気になる職員には、少しの時間でも相談にのるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記の評価制度の充実を計り、職員一人一人を適正に評価するようにしている。コロナ禍で外部研修参加に関しては、今年度も、オンライン研修のみになっているが、以前の外部研修では、参加が難しかった非常勤の方も参加できるという利点がある。また、法人全体として、資格取得応援制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ終息後には、以前、開催していた、認知症家族の会等地域の会に積極的に参加し、ネットワークの強化に努めたいと思う。また、同法人の他県の施設とオンライン勉強会、研修会を検討している。コロナ禍でもできる交流を考え、サービスの向上に努めていきたいと思う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍以前は、入居前にご家族やご本人に見学や体験にきて頂いたが、今現在は、なるべく、見学者とご利用者が接触しないように見学していただいている。当グループホームや介護保険等に関して、疑問に思うこと、不安な事やご要望などをお聞きして、安心していただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	聞き取り内容	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご自宅の様子、これまでの生活歴、不安に思う事、疑問に思う事、要望等を十分に聞き取り、入居後も日常の様子をご家族に報告し、相談したりと信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人、ご家族にとって、必ずしも直ぐの施設入居が良い場合ばかりではないので、担当のケアマネの方も交えて、在宅の他のサービスも視野にいれつつご本人にとって一番安心できる生活とは何かを考えるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の先輩であるご利用者から何かを教わったり、励ましあったりといった関係を築き、ご利用者と一緒に生活するという意識をもつようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時にご家族にご本人の様子を話し、一緒にご本人について話し合い、相談し合い、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会は、ご家族のみに限らせていただいている。ご家族、知人や友人から電話が本人宛にくると、ご本人につないでいる。ハガキや手紙等もご家族に確認後、ご本人に渡している。	面会制限があり、現在はご家族のみとしているが、友人や入居以前から関わりがある方は電話などで話される機会がある。職員が友人等と関わる機会は中々持っていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の間関係を把握し、トラブルにならないように職員が仲介し、また、ご利用者一人一人に合った役割を決め、お互いに支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所直後は、ご家族や入所先からの相談のある方には、できるだけ相談や支援をするように努めているが、ご本人が亡くなったり、他の施設に移られるという場合が多いので、年月が経っても関係が続くというのは難しい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方は自分の希望や思いを伝えるのが難しいので、ご利用者との普段の関わりの中で、個人個人の思いや、ご希望を把握し、なるべくご本人のご希望に合う生活をしていただけるように支援している。	時期になると「夏みかんを知り合いに送る」という習慣があるご利用者があり、その事が気になり不穏になることがあった。職員が道の駅などで箱で夏みかんを購入し、代わりに送ったりなど、ご利用者が入居以前の習慣を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	聞き取り内容	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談はなるべく、自宅を訪問させていただいて、自宅の間取りや生活の様子を見させていただきながら、ご本人、ご家族とお話しさせていただいて、居宅のケアマネがついている場合には、ケアマネからもそれまでのサービス利用状況等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの一日のおおまかな日課は決まっているが、お声かけして、ご本人の気が乗らない場合は、ご本人の好きなように過ごしていただき、血圧や顔色、普段と違う行動など、小さな変化にも気づけるような支援をしている。また、何か変化があれば、記録や申し送りをするようにし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは面会時や電話で連絡や話し合い、ご家族、ご本人の要望、意向を伺い、ケース会議で、課題、問題点を話し合い、介護計画を作成し、ご家族、ご本人へ説明し、理解していただいている。	ご本人の要望の他、面会時や電話で話をする機会がある時にご家族より意向を聞き取っている。ケース会議は月に1度行っており、できる限り複数の職員で問題点を話し合い、意向を反映させている。作成された計画書はご家族、ご本人に説明し理解していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出来事を個人のケース記録に、具体的に支援の内容と様子を記入している。日々気づいた事があれば、職員が申し送りノートに記入し、必ず、業務前に読み、サインをする事になっている。また、会議や打ち合わせ等で、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人、同敷地内に特養があり、ご本人の介護度が進み、グループホームでは対応が難しくなった場合などは、特養のご利用も視野にいれて検討できる。また、特養のショートステイを利用されている方で、グループホームの方がご本人に合うのではないかとと思われる方は、特養のケアマネ、ご家族、管理者と相談し、入居されるというケースもある。同敷地内の障害者施設や特養の看護師や栄養士などの支援も得られるような体制になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが落ち着き始め公民館等のイベントが徐々に緩和されてはきているが、まだ不安などもあり参加はしていない。敷地内もまだ交流は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にカルテを作り月3回の往診と随時通院をしている。協力医とは常にご利用者の情報を共有しているので速やかな医療を受けることができる。緊急時や入院時は管理者と家族、先生とで相談し、どうしていくかを決めている	定期的な往診に加え、必要時に通院をしている。また、緊急搬送の事例はあるが、あらかじめ医療機関にご利用者の状態を知らせている為、緊急時にも対応ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の施設看護師に相談や点滴、採血などお願いしている。コロナに伴い日々のご利用者、職員の発熱者の情報を全施設で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	聞き取り内容	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご利用者のサマリーを持参し、認知症状や日常の注意点も関係者に伝え情報を共有している。入院中は様子伺いの電話を入れ、認知症状が酷くなっている場合には早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しグループホームでの生活が難しくなる前に、ご家族には特養への申し込みのお話を段階的に行っている。法人内の特養の他にも市内の特養との交流ができ、受け入れていただいている。	過去に看取りを行った事例はあるが、同一法人に特養がある事から重度化した場合、申し込まれるケースが多い。特養への入所を検討される際には、その他特養もご案内することもあり、ご家族、ご本人の希望を重視している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応をした場合には、職員全員が対応できるように報告書や申し送り、口頭で情報を共有し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いろいろな場合に備えての訓練は行っている。災害用の倉庫も使いやすく整備し直し、新たに布担架を購入した。ご利用者の家族より沢山の毛布や布団を寄付していただき、いつでも、どの部署が避難してもいいように仮設ベッド等と一緒に準備している。	数年前の台風災害や土砂崩れなどの経験を活かし備蓄の整備、必要物品を揃えている。また、感染対策をした上で同一法人施設と合同での訓練も行っている。	市の福祉避難所として認定されていることから、災害時に地域住民が避難してくる可能性も十分に考えらえる。地域の方との合同訓練での避難訓練などの実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の今まで送られてきた人生に敬意をはらい、誇りを大切に職員は言葉使いや態度に気を付けている。ご利用者によっては地域の言葉を使った方がコミュニケーションが取れることがあるので職員は使い分けている。	プライバシーに関しては非常に多岐にわたると思いますが、個人情報の管理にあたって、USBを紛失して個人情報漏洩してしまったケースが圧倒的に多いです。個人が特定できる情報は非常に多いと思いますが、デジタル化が進むにつれ、管理が重要になってきます。記録は紙、の他にPCだどのように運用していますか？	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく選択ができるように支援している。4月からは希望を取ってグループで遠出の外出を考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクや散歩、体操、何がしたいか、どう過ごしたいか、必ず一人一人に聞いている。できる限り希望にそっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を自分で選べないご利用者には何枚か見せ、指をさして頂くなど選択していただいている。髭をはやしたい方はこちらで整えている。理美容もご自分の希望にそうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	聞き取り内容	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の主食や飲み物は毎日ご利用者の希望を聞いて提供している。行事などでは皆さんに希望を聞いてテイクアウト企画などを行っている。ノンアルコールビールも喜ばれている。不穏なご利用者にはあえて食器の片付けを手伝ってもらうことで落ち着く場合が多い。	朝食の主食・飲み物をご利用者に選択していただいている。自宅で生活するのと同じように、冷蔵庫等にある材料からその日ごとにメニューを決めている。また、感染状況に応じてキッチンカーなどを呼び、ご利用者が楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は記録表でチェックし、少ない場合は飲み物であれば温度や種類を変え、食事の場合はおにぎりに変えたり環境や時間を変えたりして提供している。毎月体重測定を行い職員、医者と相談しながら栄養バランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを徹底している。マウスウオッシュも使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄の状況に速やかに対応し、個々に合わせた支援を行っている。家でリハパンだった方も日中は布の下着に戻せた方も多い。トイレ誘導の声かけにも職員は工夫し拒否などの対応を上手く支援している。	以前より力を入れ取り組んでいる点であり、できる限り布の下着に移行できるよう職員一丸となっている。排泄リズムの把握やまずは布の下着に変更し、成功体験を通じて、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳酸菌を摂るようにしている。毎朝1時間の体操や散歩で体を動かし便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭と同じ環境に近づけるため、基本は午後の入浴にしている。一人ずつゆっくりと時間制限なく入浴している。週2回だが希望があれば都度対応している。冬場は入浴剤やボディークリームで乾燥予防をしている。	家庭環境に近い時間帯での入浴を心がけ、一人ひとりゆっくり入浴できるようにしている。入浴拒否をされる方に対しても、ご本人と話をし気分を損ねないよう、職員が工夫して入浴介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息できるようにしている。日中寝すぎで昼夜逆転しないように日中活動や日光を浴びる等なるべく参加していただき睡眠薬を使用しないで眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報が確認できるよう個人のファイルを作っている。薬の変更があった場合は職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	聞き取り内容	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花が好きな方は、一緒にホームセンターに行き買い物をしたり、ドライブが好きな方はドライブに行っている。それぞれできることを職員は見つけ仕事としてやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	徐々にドライブの回数を増やしている。不穏な方はドライブに行くことで落ち着かれることが多いので職員はその都度対応している。コロナが落ち着いてきたら帰宅外出も再開していく予定。	感染対策を行った上で月に何度か計画を立てて外出をしている。感染状況に応じてとなるが、年に2回ほど遠出の外出も計画している。コロナ禍が開けた際には、自宅への帰宅外出も考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かっているが自己管理できないため、欲しいものがある時は職員が代わりに購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればかけていただいている。ラインでの面会も随時行っている。手紙のやり取りや年賀状・暑中見舞いも出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは清潔を保ち芳香剤を置き、臭いにも気を付けている。廊下や生活室、洗面台には季節の花がいけてある。ご利用者の生け花を玄関に飾ることもある。職員のマスク姿にも慣れた。毎月ご利用者が制作した大きな貼りえカレンダーも生活室に飾っている。	館内の清潔を保てるよう様々な挿花をされている。匂いへの配慮の他、季節に応じた花を飾ったり、ご利用者が活けた花を飾ったりなどしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの生活室の他に多目的ホールを開放しトラブルにならないよう、それぞれにあった居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドは備え付けになっているが、使用については家族と本人の自由に行っている。なるべく落ち着いた環境にしたいので使い慣れた物を持ってきていただいている。ベッドをどかしマットを敷いて布団にしている方もいる。	使い慣れたもの(椅子など)を自由に持ち込めるが、事故リスク等の検討もしっかり行い、ご利用者の身体状況に合わせた自立を促す支援や環境を整備するようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活室ではご利用者それぞれの歩行状態や動線を考えてテーブルや椅子を配置している。居室は夜間の転倒を防ぐためベッド・タンスの位置を工夫し、ふらついてもつかまれるよう配置している。		